

習近平三期目の中国の外交と日本

拓殖大学海外事情研究所教授 富坂聰
とみ さか さとし

- * 日本の防衛力強化に反応しない中国
- * ASEAN諸国との間に対中認識のズレ
- * 最悪を想定しない日本の安全保障観
- * 死活的に重要な石油、食料、通貨
- * 中国による台湾侵攻の可能性は薄い
- * 正確な中国報道をしない日本のメディア
- * 中国の対米不信感とは何か
- * 台湾人のバランス感覚について
- * 92コンセンサスへの回帰が試金石
- * なぜ中国は上海協力機構に注力するのか



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

本日は富坂先生においでいただきました。前回は一昨年（2022年）の10月でございました。もう既に3回目でございますので、改めてご紹介の必要もないかもしれません。1964年のお生まれで、中国でいろいろ勉強され、その後、雑誌記者等を経て、今、拓殖大学で教鞭を執っております。中国の本場の姿というのが日本ではなかなか理解されない、特に日本ではメディアを通じて一方的な報道が積み重なっていくと、とりわけそうなります。今日は少しそういったしみてみた話を落としていただくといいと思います。富坂さんにお話を聞きしたいと思います。

（拍手） それでは、先生、よろしくお願いたします。

日本の防衛力強化に反応しない中国

富坂 皆さん、こんにちは。本日は非常に暖かい日差しのほかばかした、冬にあってはちょっとほっとするような日になりましたので、少々皆さんの背筋が凍るような話をしても大丈夫かなと思って、自信を深めてやってきたわけです。私はあまりいろいろなところに配慮しませんので、自分の好きな話をさせていただくというところで、ふだんあまり皆さんの聞かない、一般のメディアが報じない、ちょっと違った切り口から中国のお話しさせていただきたいと思っています。

中国は、このところ日本の動きに対し、かなり苛立っています。すごく怒っているはずな